農林金融2008年２月号

農地集積の動向と課題

(内田多喜生)

2005年センサスより農地の集積動向をみると、都府県では大規模層（5ha以上層）の経営耕地は緩やかな増加にとどまる一方、自給的農家の経営耕地が増加に転じるなど、大規模層への農地集積の遅れがみられた。この背景には、小規模農家の経営縮小のスピードや大規模層の受入体制の整備状況が地域によって大きく異なっていたことがあげられる。

今後の農家数及び耕地面積を予測しても、都府県では小規模層を中心に経営縮小が進むものの、農地の受け手側の体制には依然大きな地域格差が存在するとみられる。そのため農地流動化の支援体制整備とともに、農業条件等の違いを踏まえた農地集積後の経営安定のための施策も同時に進める必要があろう。

利用間伐促進に向けた森林組合の取組み

(栗栖祐子)

人工林の成熟化に伴い、利用間伐の必要性が高まっている。しかし、現在の木材価格を前提に作業を行うためには、低コスト化が避けられない。そこで、小規模林地を取りまとめて路網を整備し、高性能林業機械を活用する方法が以前にも増して注目されている。

本稿では、こうした方法を「団地化・集約化」とし、取り組み方の異なる３つの森林組合について特徴を整理した。これらの取組みは、対立するものではなく、むしろ組み合わせることによって、「団地化・集約化」が一層広まると考える。そして、「団地化・集約化」によって利用間伐が進むことは、森組経営が安定化し、疲弊する山村経済が多少でも改善され、人工林の適切な管理に結びつくと考える。

農林金融2008年３月号

原油100ドル時代の到来とその影響

(渡部喜智・木村俊文)

代表的な原油取引であるウエスト・テキサス・インターメディエートは、2月19日に終値で史上初めて100ドル台で終わった。この石油市況の高騰の背景には、新興国の需要拡大が牽引し世界の石油需要の堅調な伸びを示す一方、OPECなど産油国の生産抑制姿勢があり、予想以上の高止まりだ。また、石油市況の上昇と海外依存の高まりを受け、ブッシュ政権が打ち出したトウモロコシなどを原料とするバイオ燃料の高い利用目標の設定が、今度は穀物市況に火を点けることとなった。

石油や飼料の価格上昇による農畜産業への影響は深刻であり、経営継続が危ぶまれる事態となっている。石油と穀物の市況高騰に伴うコストアップによる価格転嫁も強まっており、企業の業績悪化や個人消費の減退などの先行き懸念は大きい。

高まりつつある中国の米州大陸への食料依存

(阮　蔚)

世界の穀物相場は異常な高騰ぶりを見せているが、需給逼迫傾向の持続が前提とされている。

世界の穀物需要に最も影響を与えたのは米国のエタノール向けの巨大なトウモロコシ需要であり、次いで中国の大豆輸入である。近年の中国の大豆輸入急増は世界の穀物需要を押し上げた。需要増に対して、米国、ブラジルとアルゼンチンは増産で対応してきた。特にブラジルの増産は大きく、その背後には日本の技術協力と穀物メジャーの存在が大きかった。

ブラジルの原料を手に入れた穀物メジャーは中国で搾油企業の買収等をとおして，「ブラジルから中国」という大豆貿易の流れを確立した。メジャーのこの世界貿易チェーンにはめ込まれた中国は今後米州大陸への食料依存が高まる可能性がある。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。

農林金融2008年２月号

中国野菜安全性確保の取組実態

(蔦谷栄一)

中国製冷凍ギョーザ中毒事件が発生し、中国製食品等に対する不信感が増幅されるとともに、あらためてわが国の食卓が中国に大きく依存していることが浮き彫りにされた。

02年の冷凍ホウレンソウ残留農薬事件を教訓に、日本に輸出される野菜の安全管理体制・法規等の整備・強化がはかられてきた。また中国国内で流通する野菜についても無公害食品、緑色食品、有機食品等が増加するなど、安全管理レベルは向上している。

しかしながら希薄な農民の安全管理意識、不十分な指導・普及体制、輸出量の増加に追いつかない税関の体制等構造的な問題が横たわっており、わが国としてもこれらを改善していくための支援増強が求められる。

農林金融2008年３月号

マグロの需給と価格形成をめぐる動向

(出村雅晴)

わが国におけるマグロ消費は依然として高い水準にあるが、近年では減少傾向にある生鮮魚介支出への連動性が高まるなど、変調の兆しもみえる。一方、マグロの供給面では、現時点での減少は小幅だが資源状況は厳しく、将来的にはいっそうの減少が見込まれる。

こうした需給環境の変化や燃油の高騰等による漁業生産コストの上昇を受けて、マグロの魚価動向が注目されている。

マグロに限らず、水産物は再生産可能な天然資源であり、食料としての貴重性を有している。持続的な漁業生産が前提となるだけに、それが可能となる魚価形成に期待したいものである。

金融市場

2008年２月号

情勢判断

1　連鎖的な世界景気減速により、日本経済は厳しい状況へ
　～2008年内の追加利上げもかなり困難な情勢～
2　不況リスク高まる。当面はＦＲＢの利下げ継続必要
3　経済・金融の動向

今月の焦点

1　多重債務問題と地域格差
　～グリーンコープ生協ふくおかにおける多重債務問題への取組み～
2　最近の法人企業におけるコスト構造
3　地域銀行の年金口座獲得の動き

2008年３月号

情勢判断

1　日本経済は08年度前半にかけて厳しい展開が続くと予想
　～2008年内は利上げ見送りへ～
2　信用収縮懸念あり。米国は利下げと減税実施が頼みの綱
3　経済・金融の動向
4　08年度改訂経済見通し

今月の焦点

1　多重債務問題と地域格差
　～九州労働金庫における多重債務問題への取組み～
2　消費者センチメントの急低下から先行き悪化懸念
3　穀物市況の高騰の背景と今後

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。